

人生100年時代の “り・とらいふ、”

[Re] [Try] [Life]

誰もが長生きできる時代となった現在、さいたま市のシニアはどのようなセカンドライフを送っているのでしょうか。シニアの地域参加への意識や実態について知り、ご自身のセカンドライフについて考えてみましょう。

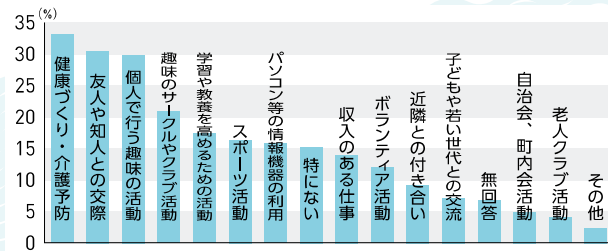
今どきのシニアの声

Topics 1

“やってみたいこと”の多様化

シニアの関心が高い「健康づくり・介護予防」以外にも、「趣味」「交流」「学習」「仕事」など、さまざまな活動について興味を持っていることがわかります。

Q あなたが今後、やってみたいことは何ですか？

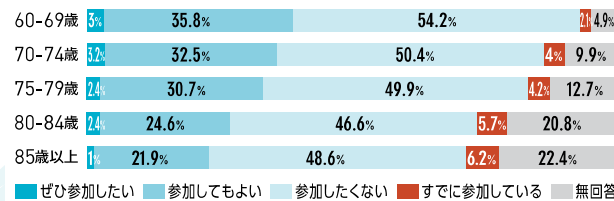


Topics 2

若いシニア世代に高まる地域への参加意識

若い世代ほど活動の企画や運営に関わりたい人の割合が増え、地域づくりへの興味を持つ人が多くいることがわかります。

Q 健康づくりや趣味などのグループ活動を行っていききました地域づくりを進めるとしたらその活動に企画や運営側に関わってみたいですか？

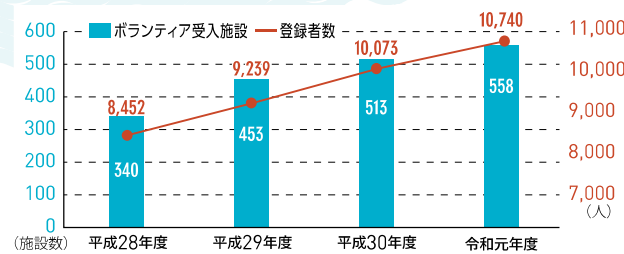


Topics 3

活発になっている市内での地域活動

棒グラフが「ボランティア受入施設数（いきいきボランティアポイント事業における受入施設）」の推移、線グラフが「いきいきボランティアポイント登録者数」の推移です。どちらも右肩上がり増加しており、市内でボランティアが身近になっていることがわかります。

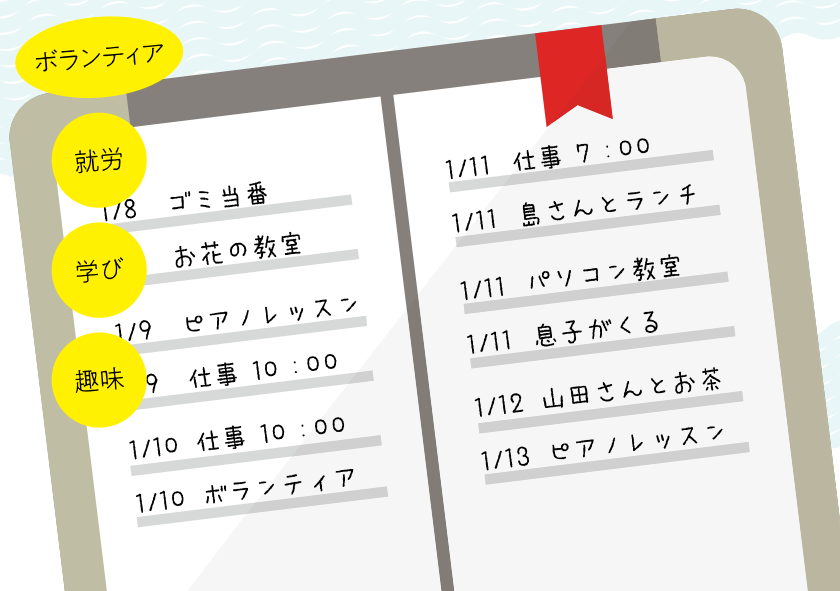
「いきいきボランティアポイント」事業推移



資料：[Topics1・2]さいたま市高齢者保健福祉計画等策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(令和2年3月) [Topics3]さいたま市いきいきボランティアポイント事業推移(受入施設数・登録者数)(令和元年)

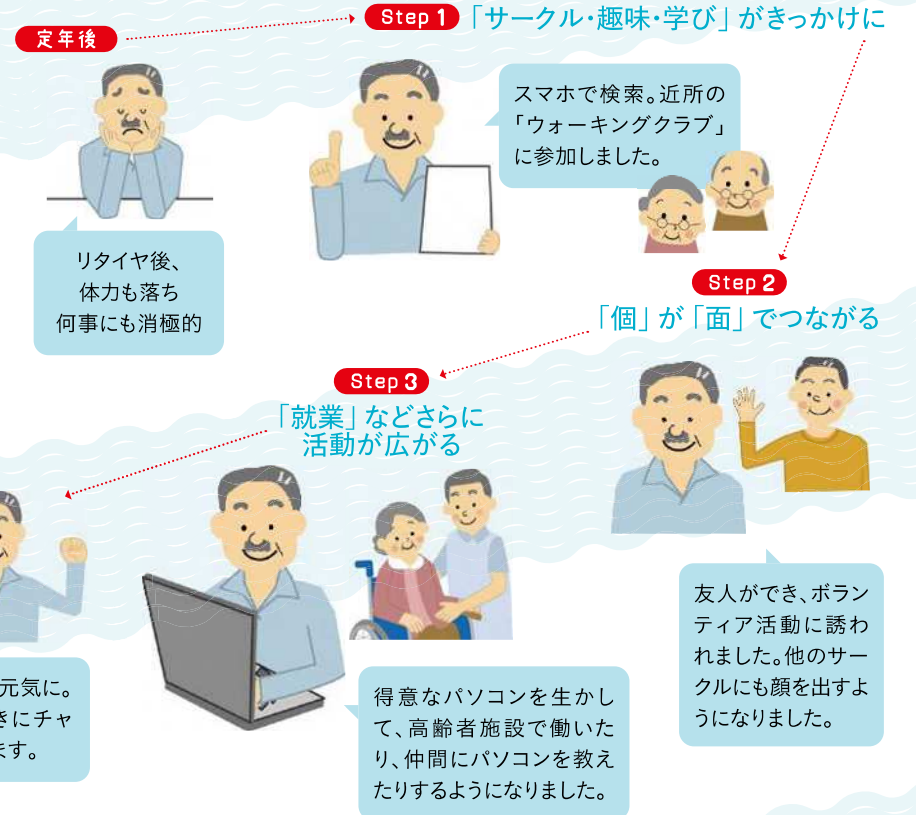
新しい時代のシニアはひまがない!?

一週間のうち、ボランティアをしたり、働いたり、趣味サークルに参加したりと、さまざまな活動を通して、自分らしく生きる人が増えています。



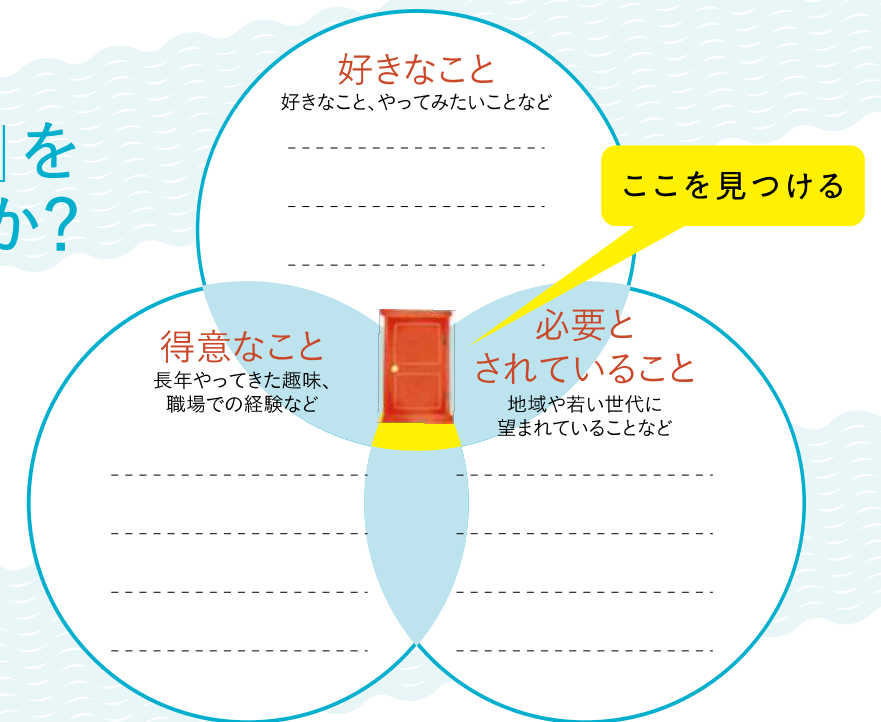
こうやって地域で活動しています!

地域で活動する“きっかけ”は様々です。学びや趣味サークルへの参加が“きっかけ”になって、ボランティア活動や就業へとつながるケースも多く見受けられます。



あなたらしい活動の「入口」を見つけませんか?

自分には何ができるのだろうか？何が向いているのだろうか？と悩む人も多いことでしょう。活動を楽しむには「好き」であること、「得意」で無理なくできること、そして誰かに「必要」とされているという充足感も大切なポイントです。



文章・構成/桑原静(シゴトラボ合同会社/BABA lab代表) 2011年地域に根差した仕事づくりをサポートする「シゴトラボ合同会社」を設立。100歳まで働けるものづくりの職場「BABA labさいたま工房」をさいたま市南区で運営しながら、全国でシニアの地域活動や就労に関するコンサルティングのほか、シニアサービス・商品の開発を行う。